

ユニバーサルデザイン (UD) とは

UD活動で暮らし

やすい環境づくり

庄田洋一 (健福17期・運営委員)

世界には、いろいろな人達が暮らしています。男の人、女の人、子ども、お年寄り。体の大きな人、小さな人、力の強い人、弱い人、右利きの人、左利きの人等々…。一人一人が個性を持っています。

そこで、年齢、性別、能力、経験、障害の有無等の違いに関係なく、誰もが同じ様に使いこなすことができるモノや街や仕組みを創っていかうとする考え方「ユニバーサルデザイン」(Universal Design)が生まれました。頭文字をとって“UD”と表現することもあります。

UDは1980年代にアメリカのノースカロライナ州立大学の建築家ロナルド・メイス氏によって提唱されました。メイス氏はUDを「全ての人を使いやすい製品や環境のデザイン」と定義し、次のような7つの原則を提示しました。



ユニバーサルデザイン7原則

- 1) 公平性：誰でも公平に利用できること。
- 2) 自由度：使う上で自由度が高いこと。
- 3) 単純性：使い方が簡単で直感的に分かること。
- 4) 明確性：必要な情報が直ぐ理解できること。
- 5) 安全性：ミスや危険なことにつながらないこと。
- 6) 持続性：体の負担が少なく楽に操作できること。
- 7) 空間性：使い易い寸法、空間になっていること。

UDと同じような意味合いでバリアフリーがありますが、バリアフリーは後から特定の人々の障害(バリア)を取り除こうとする考え方です。UDは最初から特定の人だけでなく誰もが暮らしやすい社会にしていこうとする考え方です。例えば、玄関に段差があるのでスロープを取り付けるのがバリアフリーだとすると、はじめから床がフラットな玄関にし、

開けやすい引き戸を取り付けておくのがUDです。

阪神大震災を契機にUD運動

阪神大震災のあと、神戸を世界一ユニバーサルなまちにしようと「こうべUD広場」の活動が始まりました。こうべUD広場では、市民(UDサポーター)が中心となり、企業や行政と一緒に“UDなまち神戸”を実現するために幅広く議論し、「仕組みづくり」「街づくり」「モノづくり」「意識づくり」をUDの4本柱とする呼びかけを提唱し、UDの普及を推進しています。

KSC在学中からサポーターに

私はKSC在学中、「こうべUD大学」に参加したことでUDサポーターになり「こうべUD広場」で活動しています。UDの普及を目指して、神戸市民福祉振興協会(昨年までは神戸市役所保健福祉局)と一緒に毎年、市内の小中学校30数校へ出向き2時間のUD出前授業でUDの講義をしています。特に「UDの意識づくり」相手を思いやる「心のUD」の大切さを子供達に学習してもらっています。また、地域で実践するUDの事例調査や取材活動、しあわせの村で毎年3月に開催される「こうべユニバーサルデザインフェア」にブース出展し、こうべUD広場の活動紹介と子供向けのUDワークショップを開催しています。

皆さんは、UDをご存じでしたか。神戸市の調査では、神戸市民のUD認知度は2009年では28.1%でしたが2015年には62.4%になってきています。

UDは超高齢社会を迎える日本においては、高齢者の自立生活を支える「やさしさのモノづくり・社会づくり」を実現するための有効な解決方法だと考えられています。私達は高齢になり何らかの障害を持ったとしても、心身ともに自立して、活動的に生活を送りたいものです。

藍那小で5人が見守り活動

「藍那小学校で放課後の1時間ほど見守りをお願いしたい」とKSC事務局から北区会に依頼があり、有志5人がお手伝いすることになりました。とりあえず5月から1年間実施します。北区会は毎週月曜日が担当で、メンバーは佐伯義昭、鬼村信行、伊谷正弘、道満俊徳、玉井誠の各氏です。放課後、15時から16時まで1人で運動場や体育室、図書館で見守りと児童の相手をします。藍那小の見守りは、現在23期生ら7人が交代で実施していますが、卒業や退会で継続が難しくなり北区会に要請があったものです。



声が。初めて里山を体験した人も多く、近隣の主婦グループのほか、KSCやSGS、山歩きの会などさまざまな仲間が集まりました。2班に分かれ、樹木の話、里山整備の仕方、ピオネストや堆肥の話など、スタッフの説明に聞き入っていました(写真⑤)。

展望台からは丹生山を眺めながら湯ノ山街道、有馬道など歴史の要衝だった「丹生文化」の話の聞きました。展望の途中、一瞬突風と雪花が舞い思わぬ寒さに一同びっくり。正午前、班ごとに記念撮影をして解散しました。

「満開のツツジが美しく、とても満足」「樹木や花の説明が丁寧でよくわかった」「堆肥のことは全く知らなかったのも勉強になった」「山全体がよく整備され、散策していても気分がよかった」「住宅街と隣接してこんな里山が残っているなんて驚いた」など、参加者は満足そうな表情でした。

スタッフの谷口さんは「多くの方に参加していただき、事故やトラブルもなく観察会を終えることができた。私たち和楽会がこの整備を始めて11年。これからも美しい里山づくりに役立ちたい」と話しています。(道満記)

ピンクに染まる里山散策

かがやきの森観察に30人

春の里山を楽しもうと、4月8日10時から里山和楽会(道満俊徳会長)が管理する「かがやきの森」(北区小倉台)で自然観察会が開かれました。近隣の家族連れら32人が参加。和楽会のメンバー10人の案内で、春の陽気に咲き誇るツツジ、アセビ、ウメ、キブシ、ヤマザクラなどを愛で、シジュウカラの囀りを楽しみながら約2時間にわたって散策しました。

里山はコバノミツバツツジが満開。全山ピンクに染まったようで、参加者からは「わあ、きれい」とまず驚嘆の



春のハイクは外人墓地へ 申し込み締め切りは4月24日

北区会の第4回「歴史の道ウォーキング」は5月6日(日)外国人墓地を巡るコースで実施します。神戸の近代産業に貢献のあったハンター、洋菓子のモロゾフら約2800柱が眠る外国人墓地は、個人で見学することが難しく、今回がよい機会となります。

- 日時 5月6日(日)10時~15時(雨天中止)
- 集合場所 神戸電鉄 北鈴蘭台駅改札口 10時(解散は同駅15時頃の予定)

★外国人墓地だけ見学したい方は、12時35分に再度公園のトイレ北側広場に集合。

- コース 北鈴蘭台駅→徳川道→向井高札場跡→

小部道標→二軒茶屋跡→牛ノ背→大師堂→再度公園(昼食)→市立外人墓地見学→森林植物園(送迎バス)→北鈴蘭台駅(歩行距離、約5km、約2時間)

- 弁当・水筒・日よけ帽子・雨具
- 申し込み 4月24日(火)までに、各ブロック連絡委員へ。参加費は無料。会員以外の方も歓迎しますが、先着順で30人程度になれば募集を終了します。
- 注意事項 外国人墓地内は指定場所以外の写真撮影が禁止されています。
- 中止の場合 前日5日午後のNHK・BSニュース「dNHKあなたの街の天気」で、6日9時~12時の北区の降水量が1mm以上の場合は中止。秋に順延します。
- 問い合わせ:各ブロック連絡委員、道満区会長(090-8237-1402)、木田委員(090-6679-6930)まで。

大久保さんが雪の写真展 北区会メンバーの大久保晴子さん(生環14)が3月26日から4月21日まで、中央区多聞通4の喫茶・ふるもと珈琲店で〈北の漁港〉をテーマに初めての個展(写真展)を開催。店を訪れた多くの人たちが雪に埋もれる北海道の冬

景色を楽しんでいました。大久保さんは現役の時から写真クラブに所属、温かみのある独特の描写で数々の賞を獲得。この3月の神戸市展でも入選しています。今回の写真は北海道へ2月に仲間と写真旅行に出かけ、4つ切り10点にまとめたものだそうです。